

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470500677	事業の開始年月日	平成15年 2月1日
		指定年月日	平成18年 4月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホームみのり		
所在地	(〒232-0042) 横浜市南区堀ノ内2丁目136番地の3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和3年3月14日	評価結果 市町村受理日	令和3年7月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様の尊厳を大切にし、尚且つ、個性を尊重したケアを実践することによって平均介護度が高いにもかかわらず穏やかで明るく過ごしている。
・医療機関と連携を取り、24時間体制を確保し、早めの処置により、重度化を防いでいる。また、終末期を住み慣れたみのりで迎えたいと希望される本人・ご家族様に対しては、医師や看護師との協力のもと見取り介護を支援している。食事
に
関
し
て
も
、
健
康
な
生
活
を
保
つ
た
め
に
大
切
な
こ
と
と
捉
え
、
味
付
け
や
食
事
形
態
を
工
夫
し
て
食
事
を
楽
し
ん
で
い
た
だ
け
る
よ
う
に
し
て
い
る。
日
常
生
活
に
お
い
て
の
機
能
訓
練
、
残
存
能
力
の
維
持
、
日
中
に
メ
リ
ハ
リ
を
つ
け
、
生
活
の
リ
ズ
ム
を
整
え
る
な
ど
し
て
い
る。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月29日	評価機関 評価決定日	令和3年6月14日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
グループホームみのりは、横浜市営地下鉄蒔田駅から徒歩8分、国道16号線にぬけるバス通りを一筋南に20mほど入った道路沿いにある。バス通りは商店街になっており、コンビニエンスストアや青果店、惣菜屋、食堂などがあり、利便性に優れている。当事業所は法人所有の鉄筋3階建てのビルを改築したもので、1階と3階を居室に、2階をリビングルームなどの共用部分に当てている。車いす対応のエレベーターが設置されており、利用者は各階を自由に行き来することができる。
【理念の追求】
「残存能力を最大限に生かした自立支援」「家庭的で温かい援助」「尊厳を尊重したケア」を骨子とする3項目からなる事業所の介護の在り方を理念として掲げている。介護計画書には「利用者自身で食事が摂れるようにする」「利用者同士や職員と交流ができるようにする」など理念に沿った短期目標を定め支援にあたっている。職員は家庭的な雰囲気づくりに努め、利用者同士の関係にも目を配り接している。これにより、居室より2階のダイニングやリビングルームで過ごすことを好む利用者が多く、利用者同士で日常的に語り合いながら生活している、穏やかなホームとなっている。
先般、前述の理念に加え、地域密着型サービスの意義を踏まえた「利用者、家族、地域の皆様、私たち職員がいつまでも笑いがあふれ輝いている世界を目指している」という新たな理念を策定した。管理者は新型コロナ感染症終息後を見据え、更なる地域との関係強化を図って行く意向である。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開始時からある理念をもとに新たにポリシーとして理念を出し共有し始めている。	3項目からなる事業所の介護の在り方を理念としている。介護計画書には理念を反映した目標を設けている。また管理者は勉強会の折に理念にふれ、職員間の共有を図っている。先般、法人の方針で、地域密着型サービスの意義を踏まえた新たな理念を追加した。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者に関してはコロナ感染予防のため必要最低限の外出しかできておらず、職員は近隣住民への挨拶は行っている。	町内会に加入している。例年、地域の運動会などに参加しているが、新型コロナ禍のため行事は中止となっている。散歩の際など、利用者、職員が地域住民と気楽に声を掛け合える関係を築いている。地域密着型サービスの概念を取り入れた理念を新たに定め、更に地域とのつながりを強化していく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議中止をしており、現在は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ予防のため行っていない。	例年は、家族、利用者、民生委員、地域包括支援センター職員、ケアマネジャー、管理者、法人職員参加の下、2ヶ月に1回実施している。本年度は新型コロナ禍のため、構成員が一堂に会する運営推進会議の開催は自粛している。未開催期間の運営状況などを近々、市に報告する予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密ではないが、相談事があるときは電話相談等でおこなっている	市の担当窓口とは運営相談などで連携している。計画作成担当者は、要介護認定更新申請代行の機会に、区役所へ訪問し、担当者と情報交換している。地域包括支援センター担当者とは、空き室情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法で示されている行為や、それをもとに事業所内で拘束適正化委員会を作り、会議等で拡散している。	入居契約書に身体拘束は原則しないことを明記し実践している。また「身体拘束適正化に関する指針」を定めている。利用者はエレベーターを利用し1階から3階を自由に移動している。日中、玄関の鍵は施錠していないが、門扉の施錠をしている。外に出たがる利用者はいない。	「身体拘束適正化に関する指針」に基づき、3ヶ月に1度の身体拘束適正化委員会の活動、年に2回の職員向け研修を確実に実施することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等でスタッフの情報共有をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用している方があり、必要な時に対応できるよう指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得のできる説明や不安を残さないように時間をかけ話しをしより良いコミュニケーションが取れるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には何かあれば連絡を密にし、その後の経過の報告や今後についても話し合っている。	例年は、家族の来訪時に意見や要望を聴取している。本年は、新型コロナ禍のため、面会禁止の時期が続いており、管理者、計画作成担当者は電話で頻繁に、家族と連絡を取っている。利用者や家族から意見、要望を聴取するため、意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や業務の間、必要に応じて意見交換の時間を作り、その提案をサービスに繋げている。	フロアミーティングの際などに積極的に職員の意見、提案を聞いている。食形態について「ミキサーよりフードプロセッサの方が水を使わず、味が良くなる」との職員提案があり、フードプロセッサを購入した。レクリエーションは職員主導で企画、実行されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの目標等、整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングや、その時その場で起こった事に対しケアについて話し、介助方法等指導している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在コロナ予防のため行っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族と疑問や不安が残らないよう時間をかけ話を聞き、生活歴等聴き把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在は見学ができない状況なので写真を見てもらい一つ一つを説明した上で、今までどのような状況で困っていたのか、どのような変化が起きたのか等話しやすい雰囲気にするようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24時間シートを活用し、必要な支援は何か、本人が困っている事、不安な事等を傾聴しつつケアに繋がる情報の共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合わせ、日常生活の中で、職員を手伝ってもらえる機会を増やし、感謝の気持ちをしっかりと伝え、一方的な関係にはならず、自分にも役割があると思ってもらえるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望や意見を取り入れ、面会の制限はあるが、電話で話したり、必要な通院等の援助を家族とともに考え協力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出の制限があるため、電話対応のみ行っている。	「遠方の親戚の来訪」「月命日に合わせた一時帰省」「家族との外食」などを例年支援しているが、新型コロナ禍のため、実施できていない。馴染みの美容院に通う利用者のために、当美容師に来所してもらった。利用者の好きな映画音楽を職員がピアノで弾いたり、テレビでのスポーツ観戦の環境を整えたりと趣味、生活習慣の継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考え座席等も工夫しており、利用者同士の会話に繋がるようスタッフが間に入り会話や手伝い等参加できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもご家族からの相談を受け解決に向けてのアドバイスをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランをはじめ、本人の意向は申し送り時等スタッフ間での共用をし、可能な限り行う。行えない場合は妥協点を本人とも話し、納得できる答えを探している。	日常の会話の中で利用者の希望、意向を把握し、できる限り意向に沿うようにしている。意向を表すことが困難な利用者については、表情やしぐさから読み取るなど意向の把握に努めている。言葉の裏にある「強がり」「困りごと」なども見逃さないようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の情報を、本人又は家族等に話を聴き本人らしさを引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う。に気づけるように普段からの観察をおこない、心身共に少しでも変化があれば話を聴きスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、ご家族の意向をケアプランにしているがその効果が実際にあるのかスタッフ間で話し見直している。	短期目標の期間に合わせ、3ヶ月に1回、介護計画書の見直しを実施している。モニタリング、アセスメントを反映させると共に、家族の意向や主治医の意見を取り入れた介護計画としている。介護記録には、介護計画書の「課題」と「チェック内容」があらかじめ印刷されており、職員が介護計画書のニーズを意識しながら、時系列の支援内容を記載できるように工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に簡略化されたケアプランを載せており日々の記録の他にケアプランの内容に沿った事をした時は番号をつけ、ケアプランの内容を分かりやすくしており、さらにモニタリングしやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、本人、ご家族様と相談した上で、同一事業所間の移動も含め話し合い、医師や訪問看護とも連携している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ予防のため行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望する医療機関、かかりつけ医に行けるように介護タクシーの手配など協力している。また、家族が受診対応している時に医師からの質問に答えられない状況がないよう、普段のバイタルや必要に応じ医師と直接電話でやり取りする事もある。	入居前のかかりつけ医を受診している利用者が2名いる。受診情報は家族から聞き取っている。協力医の往診が月2回行われている。訪問看護師が週1回来訪し健康管理をしている。協力薬局の薬剤師から直接協力医に連絡できる体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週に1度の健康チェックをおこない24時間体制で、相談、対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先、かかりつけ医と連絡、相談を行い、帰施後の対応方法を検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期の指針の説明、過ごし方の希望を聴きそれをもとに終末期になったときに、家族、医師、看護師、介護士、ケアマネ等で話し合い看取りまで支援している。	入居契約時に「重度化・終末期対応指針」を説明し、重度化した場合の方針を共有している。医師が「利用者が重度化状況にある」と判断した時点で、あらためて、家族に同書類を説明し、同意を得ている。事業所で看取りを行う場合は「看取り介護についての同意書」を取り交わし「看取り計画書」を作成し対応している。先般、事業所での看取りがあった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャートをもとに、職員誰もが緊急時に備えるようにし、実際に搬送がある場合、緊急対応の経験が浅いスタッフがいる時は一緒に行うようにしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震予防として、家具の固定備蓄の準備をし火災時には近隣住人への声掛け、協力を仰ぐ、水害対策は検討中。各フローチャートを作成しており、それをもとに対策している。	例年、運営推進会議の開催日に合わせ、参加者の協力を得て、年2回の防災訓練を行っている。内1回は消防署の立ち合いもある。本年度は新型コロナ禍の影響もあり、実施できていない。非常食や飲料水3日分の備蓄の他、カセットコンロやブルーシートなどが準備されている。	年2回の防災訓練を確実に実施することを期待します。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にしている。入浴時、必要に応じ同性介助を行う、排泄時の声掛けの仕方等に気を付け、配慮ある介助を心がけている。	理念の中に「尊厳ある生活」を謳い、人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。不適切な声かけなどは、管理者がその都度注意している。個人情報に係わる書類は鍵の掛かる書棚に収納している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも自己決定の場を設ける機会を増やし、普段から考えられる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声をかけられたら、まず足を止め話を聴く、声を掛けられない方でも、スタッフから寄り添い希望を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや、いつも同じ服にならないよう自己決定もしてもらいながら身だしなみに気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は使い慣れたものを家庭からお持ちいただき、食事形態や好みに応じて肉禁や魚禁等その都度変えている。食事は業者だけでなく、入居者から食べたいものを聴き作る事もしている。	質の高い食事の提供を介護の柱としている。副食の食材、レシピは配食業者が用意しているが、味付け、食形態は利用者に合わせ提供している。ひな祭り、花見、クリスマス時のイベント食に加え、とんかつ、餃子、ロールキャベツなど利用者の希望するものを職員が手作りしている。その際は、配食業者の配達を中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分量を記録し、座位や姿勢保持と嚥下困難者にはトロミを使用している。また夏場に限らず食事、おやつ以外の時間も声をかけ水分補給を促している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	以前訪問歯科を受けていた時の指導や、（現在はコロナ予防のため中止）口腔体操等行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	退院時や、褥瘡等の処置が必要な方以外は、トイレでの排泄を促し日中、夜間ともにリハビリパンツを使用。立位ができない方でも2人介助で本人の無理のない範囲で行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実施している。座位の保持が難しい利用者は、2人介助で対応している。夜間は睡眠を優先しているが、3時間ごとにパッドを取り換えるなど、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便困対策として医師と連携をとり下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の入浴日は決めず、週に2～3回の入浴を行い、その日の気分や体調により、変えている。	特に入浴日は定めず、利用者の体調、気分に合わせて入浴を提供している。入浴チェック表を用いて、週2回から3回の入浴を確保している。入浴をしない日は足浴をし、気持ちよく休めるよう支援している。希望により、同性介助にも対応している。菖蒲湯などで季節を感じられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の就寝時間はあるが、無理には寝かさずにスタッフと過ごし、本人に無理のないよう声掛けをしながら入床。日中も午前、午後と分けて昼寝している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情での確認や変更時には申し送りに書き確認、服薬時には職員2人での確認をおこなう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の得意な方には家事を話し好きな方には他の方との会話に参加等、特異な事を把握し、出来る事での気分転換をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナのため行えていない。	天候が良い日は、毎日散歩を楽しんでいたが、新型コロナ禍のため、自粛している。近隣の神社詣でを日課にしている利用者がおり、マスクなどの対策を施し、職員が付き添い継続を支援している。新型コロナ禍のため車窓からとなったが、ドライブを兼ねて大岡川の桜見学を行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には家族に相談した上でお願いをしており。その他の方は金庫に保管し、必要に応じ出し入れしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけて頂いている。携帯を持っているかたもいる。かかってきた電話は取り次いでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階にて、その月の壁紙飾り2階にはベランダで草木を育て鑑賞できるようにしている。共用空間にもテーブルを配置し、一人でも他の方とでも過ごせるようにしている。	玄関には利用者と職員が協同で作成した季節の壁面飾りを展示している。各階に加湿器付きの空気清浄器を置いている。居室より2階のリビングルームで過ごすことを好む利用者が多く、利用者同士で日常的に、語らいながら生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室又は共用空間にテーブルを置きプライベートな空間で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なじみのある家具の持ち込みや、家でのベットの折り口等を参考に居室内の家具やベットを配置している。	居室には、クローゼットやエアコン、介護ベッド、照明、カーテンが備え付けてある。利用者は馴染みの物を持ち込み、居心地よく暮らせる空間としている。仏壇を置いている利用者もいる。比較的シンプルな部屋づくりをしている利用者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子、歩行器に安全な動線を考え配置し、必要以上の介護にならないようにしている。		

